

## カエルの食卓

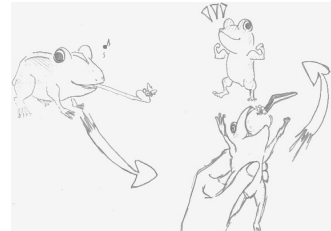
伊瀬知侑汰・上田 凜・門脇和也・木村 俊・鈴木北斗 (兵庫県立三田祥雲館高等学校)

この実験は、カエルの食べているえさを調べることによって、カエルの生態の一面を知ることを目的に計画した。同じような環境にいて、似たようなえさを求めて動くカエルについて、もしえさがなくなったらどちらが生き残るかを主に考察した。

### 材料と方法

三田周辺の水田で捕獲された直後の、生きたトノサマガエルとヌマガエル、ならびに沖縄島南部で捕獲され、液浸されたヌマガエル標本を対象とした。

生きたカエルは胃を反転させ、口から引き出して内容物を採取した。まずカエルを左手に持ち、ピンセットで口を開く。親指で腹部を押し上げると、反転した胃袋が口から出てくるので、ピンセットで内容物を取り出した。胃は口の中に戻し、カエルは捕獲場所に放逐した。液浸標本は腹部を切開し、胃内容物を採取するとともに、胃の位置や形状を観察した。



### 結果

トノサマガエルからはハサミムシの胸部、節足動物の肢、双翅類の幼虫、ヤマタニシが、ヌマガエルからは、節足動物の肢、甲虫の翅、双翅類(カ、アブ)の幼虫、ガガンボの翅、完全変態昆虫の幼虫の表皮が胃の内容物として確認できた。なおトノサマガエル、ヌマガエルともに内容物のまったく無い個体が多く見られた。胃内容物データの詳細はポスターを参照のこと。

### まとめ

#### ★考察★

全3回の調査の結果、ヌマガエルはトノサマガエルが食べていないえさを、さまざまな種類食べていたが、トノサマガエルしか食べていないものは、ハサミムシとヤマタニシしかなかったため、ヌマガエルのほうが環境に適応していると考えられる。しかし、生活環境や気候なども関係してくるのではないかと思われる。

#### ★今後の課題★

より多くの場所でカエルの胃内容物を調べるとともに、えさ動物の生息状況も調べることで、えさ動物の多様性や種類ごとの生息密度、カエルによる利用頻度の高低を明らかにする。さらに結果をカエルの種間で比較することにより、ヌマガエルとトノサマガエルではどちらが、調査地のえさ環境により適応しているのかについて、検討を進める。今回の検体に胃内容物が見られないものが多かった理由についても、今後の研究課題としたい。